

令和4年度 全国学力・学習状況調査の結果(南中学校)

平均正答率

自校の平均正答率と県の平均正答率との比較

	国語	算数・数学	理科
南中	下回った(68)	下回った(46)	下回った(44)
埼玉県	70	52	49
全国	69	51.4	49.3

児童生徒質問紙調査の結果と分析

※質問事項は質問紙調査より抜粋したもの

※「している」「どちらかといえばしている」を合わせた値(単位 %)

	質問事項	南中	埼玉県	全国
生活習慣	朝食を毎日食べている	91.8	92.1	91.9
	毎日、同じくらいの時刻に寝ている	82.7	80.6	79.9
	毎日、同じくらいの時刻に起きている	92.4	91.7	92.2
	新聞を読んでいる(週に1回程度以上)	9.6	7.9	9.4
学習習慣	家で、自分で計画を立てて勉強をしている	63.4	60.3	58.5
	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる	88.3	78.4	74.7
	昨年度までに受けた授業で、課題解決に向け、自分で考え、自分で取り組んでいた	91.7	83.3	79.2
	学校の授業時間以外に、平日、1日当たり1時間以上勉強をしている(学習塾等で勉強している時間も含む)	41.4	42.4	35.2
教科への関心	国語の勉強は好きだ	64.5	61.2	61.9
	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う	88.9	90.6	89.7
	数学の勉強は好きだ	61.3	56.8	58.1
	数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う	77.9	74.8	76.5
	理科の勉強は好きだ	82.1	64.8	66.4
	理科の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つと思う	56.2	62.5	61.5
ICTの活用	昨年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、週に3回以上使用した	91.7	51.1	50.9
	学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、週に3回以上使用した	66.2	37.2	37.2
	学校で、学級の生徒と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、週に3回以上使用した	20.7	14.9	17.8
	学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、週に3回以上使用した	11.1	12.7	15.0
	平日、1日あたり1時間以上スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を、勉強のために使っている	5.5	6.3	6.3
その他	自分には、よいところがあると思う	86.2	81.2	78.5
	将来の夢や目標をもっている	85.5	68.9	67.3
	人の役に立つ人間になりたいと思う	98.6	95.0	95.0
	今住んでいる地域の行事に参加している	60.0	36.3	40.0

【質問紙分析】

- ・ 深谷市は早くから児童生徒全員にタブレットを貸与しているので ICT の授業での使用率は県・全国に比べ非常に高い。
- ・ 学習面では県や全国と比べ、取り組みや意識は高いが結果に繋がっていない面がみられる。
- ・ その他の項目に関しては、全て県や全国と比べて非常に高い結果となっている。ここに本校の特色が表れている。

全国の平均正答率と比較して大きく上回った問題○と課題のある問題●とその理由

【国語】

○意見文の下書きの一部について、文末の表現を直す。

○行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものを選択する。

●スピーチの一部を呼び掛けたり、問いかけたりする表現に直す。

●話の進め方の良さを具体的に説明したものを選択する。

●文脈に即して漢字を正しく書く。

授業の中で書く場面を意図的に多く取り入れ、小グループで読みあうことで言葉の使い方に対する意識が高まったと思われる。しかし、相手を意識して論理的に説明することが定着していない。

無回答率が低く、書くことを多く取り入れたことがよかったと考えられる。

【算数・数学】

○統計での箱ひげ図について、データの個数や散らばりの程度を理解している。

○与えられたグラフにおいて、条件に合った座標をかく。

●素因数分解

●予想がいつでも成り立つかどうかを述べる。

●差が4である2つの偶数の和が4の倍数になることを説明する。

近々に学習した内容については定着している。以前に学習した内容の定着が不十分。説明したり、記述したりすることを苦手としている。

【理科】

○分子のモデルで表した図を基に化学反応式で表すことができていた。

○節足動物の外部形態の観察結果と調べた内容を、生活場所や移動の仕方と関連付けて、体のつくりと働きを分析して解釈できていた。

●力の働きに関する知識及び技能を活用して、物体に働く重力とつり合う力

●データを用いて考察を行った他者の考えについて、多面的、総合的に検討する。

□以前に学習した語句や仕組みなどの定着ができていない。文章などを選択して答えるものが苦手なので読み取る力が定着していない。

□ていねいに時間をかけて小テストや説明をしたものは数値が平均をこえていることから、じっくり繰り返して行うことが必要。

課題への取組・改善策

【国語】

- ・聞き手や読み手を意識した、スピーチや作品の発表会などの授業を多く取り入れる。
- ・論理的に表現する例を挙げて、パターンをまねて文章を書いたり、発表したりする授業を行う。

【算数・数学】

- ・ペア学習などでも説明を求める場面などを取り入れる。
- ・小テスト（復習を含む）をタイムリーに実施する。
- ・小テストの中に記述を組み込むなどの工夫が求められる。

【理科】

- ・復習の小テストなどを取り入れる。
- ・授業での小テストを繰り返し、考察などをじっくり考えさせる時間が必要。
- ・実験も多く取りくめるように工夫し、それぞれの実験の関連性も伝え考えさせるようにする。

【その他】

- ・家庭学習等のひとり学習の時間の確保と学習内容のレベルアップが必要。